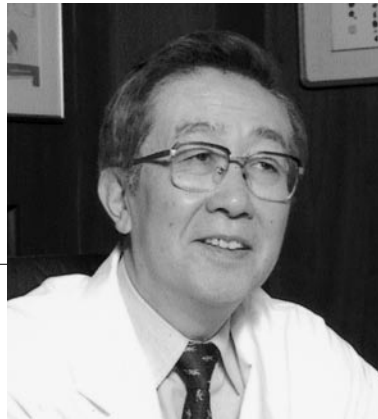


## 巻頭言



理事長  
武谷雄二（東京大学教授）

この度『日本生殖内分泌学会誌』第10巻を発刊いたすことができました。青野前理事長の御尽力で本格的な学会誌としての体裁を保つようになってから3巻目であります。

本会自体設立されてから、未だ10年ということであり本会の方向付けをまだ模索している段階であります。また本会の会員の構成も産科婦人科学、泌尿器科学、小児科学、内科学、生物学、生理学、生化学、農学、獣医畜産学など誠に多岐にわたり、極めて学際性の高い学会であります。各領域が本会においてmultilateralに活発な情報交換を行い、個々の領域の発展に努力するとともに生殖内分泌学として新分野を創設する気概をもっていただくような学術団体に致さねば本会の今後の隆盛も望み得ません。

上述のような現状に鑑み、本学会誌はいわば、本会の進路を暗示するロードマップのような機能を果たすものであります。しかもマップは会員の方々の本会におけるアクティビティを通じ作成されるものであります。従いまして、本誌の内容や充実度は本会の将来に直接関わるものと思われます。

本誌は未だ揺籃期にあり、現在、そのコンテンツについて編集委員会において、活発な議論を行っているところであります。項目立てもかなりの手直しがなされておりますが、これからも、本会の発展と共に学会誌のあり方を柔軟に考えて行く所存です。会員の方々からも本誌に対する要望やご意見を是非お寄せいただきますようお願い致します。

最後に、大変充実し、印象深かった第9回日本生殖内分泌学会を大阪にて開催されました岐阜大学女性生殖器学・玉舎輝彦教授に本会を代表して謝意を表する次第です。また本誌の企画、構成に多大な意を尽くされた峯岸 敬編集委員長にもこの場をおかりして感謝の意を表します。